

## WHO-FIC ネットワーク年次会議(ケープタウン)報告

主催	WHO 及び南アフリカ WHO-FIC 協力センター
開催期間	平成 23 年 10 月 29 日 (土) ~11 月 4 日 (金)
会場	南アフリカ、ケープタウン サザン・サン・ケープサンホテル
参加者	WHO、WHO 協力センター、厚生・統計関係部局、NGO、オブザーバー等 約 150 名

### 主な議題について

#### (1)各種委員会報告

- 死因分類グループ (Mortality Reference Group(MRG))、死因分類専門部会 (Mortality TAG (mTAG))

##### <MRG>

- 分類改正改訂委員会 (URC) への提案課題のうち継続審議 29 項目、新規提出項目 7 項目について検討した。

##### <MRG、mTAG 合同会議>

- ICD-11β 版 (2012 年 5 月) の発表を 1 年先送りするよう WHO に提言することが合意された。これは、各章の構造提案の完成度にばらつきがあり、現在のままでは、mTAG、疾病分類専門部会 (MbTAG) として責任をもって死因統計、疾病統計リストの提案ができないことによる。  
※WHO 担当コーディネーターはこの提案を却下し、予定の変更はしないと述べた。

- 生活機能分類グループ (Functioning and Disability Reference Group(FDRG))

始めにガイドラインの検討グループ (特定集団のデータ収集及び制度別データ収集の 2 グループ) と改正提案検討グループに分かれて検討を行った。

- ICF のガイドライン
  - ・ ガイドラインの開発作業は 2006 年から開始されており、特定集団及び症例を対象とした利用方法の 2 つの流れで検討してきた。2010-2011 年にはガイドラインを序論、特定集団のデータ収集、制度別データ収集、制度別データのコーディング(可能ならば)の 4 つのセクションで構成することが合意された。
  - ・ 2012 年の年次会議に最終ドラフトが提案される予定。
- ICF 改正作業
  - ・ ICF-CY (国際生活機能分類—児童版) 作成時に修正された ICF との共通部分に関する小改正提案である 42 提案について、URC への提案に先立ち検討がなさ

れた。

- ・ 来年に向けた作業予定が発表になった。2012年6月1日までに中間年次会議に向けて来年の最終提案を絞り込む。
- fTAG（生活機能分類専門部会）からの進捗報告
  - ・ iCATへ生活機能特性を入力するためのガイドライン改正作業
  - ・ 生活機能特性のICD-11への統合事例集
  - ・ 関連する分野別専門部会や関心を示しているNGO等との会議開催の提案
- ICFとISO9999の整合化（Harmonization）及び測定のタスクグループからの年間活動報告

#### ●分類改正改訂委員会（Updating and Revision Committee（URC））

- ICD分野：総提案101件
  - ・ 受理45件（うち大改正13、小改正32）
  - ・ 否決16件
  - ・ 次年度への持ち越し20件
  - ・ ICD-11への提案20件

※日本からの提案された6項目は、4件：一部修正の上採択、1件：来年再提出、1件：ICD-11TAGへの送付となった。

主な議論：ICD-11TAGから出された一部改正提案の5桁項目については、ICD-10の構造に大きく影響を与えることから精査の上、再提出するよう提案TAGへ差し戻された。ICD-O-3の一部改正については、URCの担当外とすることが合意された。

- ICF分野：総提案45件、会期中の審議20件
  - ・ 受理13件（うち10件は修正の上受理）
  - ・ 否決1件
  - ・ 持ち越し6件（オープンディスカッションレイヤーへ差し戻し）

#### ●教育普及委員会（Education and Implementation Committee(EIC)）

- ICD-10ウェブ・トレーニング・ツール
  - ・ WHOのウェブ上で既に提供されている。ポルトガル語に既に翻訳されており、ロシア語、スペイン語、日本語での翻訳が準備中である。ツールのサポートグループが発足したが、活動量が増大しており、計画の見直しが今後必要である。
- ICFウェブ・トレーニング・ツール
  - ・ ドイツ協力センターの協力により現在イントロダクションモジュールがウェブに提供されている。現在上級のモジュールを作成中。
- ICD、ICF普及データベースの進捗状況の紹介
- 国際コーディング試験について
  - ・ 死因コーディングのパイロット試験が100の設問を用いて数カ国で行われた。使用言語は英語、フランス語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語である。
  - ・ 疾病コーディングのパイロット試験が、日本、韓国、ジャマイカ、スリランカ、スウェーデン等で、実施されたことが報告された。

- 情報科学・用語委員会 (Informatics and Terminology Committee(ITC))
  - SNOMED-CT と ICD とのマッピング、リンケージが委員会として大きな課題である。
  - 多言語間の問題解決のため ClAML を活用することが有用であるという点で合意。
  - 提出された論文について議論が行われた。
    - ・ ICF-CY の身体構造と SNOMED-CT とのマッピング。
    - ・ ICD-11aブラウザの紹介
    - ・ カナダ救急医学会作成の ICD-10-CA ショートリスト。
- 国際分類ファミリー拡張委員会(Family Development Committee(FDC))
  - ICHI(国際医療行為分類)の開発報告。
    - ・ ICD-9CM Vol.3 を基礎として作成された循環器に対する介入の分類の試作版が完成し、関係者に配布された。
    - ・ リハビリテーションを目的とした介入や看護に関する介入、公衆衛生的介入、外科手術を ICHI に導入ことが検討されており、関連する分類とのマッピング作業についての報告があった。
  - ICTM (国際伝統医学分類) の概要・進捗状況について報告。

## (2)全体会議

- 諮問会議 (Council)
  - WHO 事務局から WHO の予算が削減され、組織やプロジェクトの改革が求められており、ICD 改訂等の事業ではこれまで以上に成果が要求されているとの報告があった。
  - WHO-FIC 協力センターの指定状況及び南アフリカ、日本が WHO-FIC 協力センターとして指定されたことが報告され、WHO 旗の授与が行われた。
  - RSG のシュート議長より ICD 改訂の状況の報告があった。
  - Council の議長選挙があり、Dr. Stefanie Weber (ドイツ協力センター長：再任) と Dr.Lars Berg (ノルウェー協力センター長：新任) が選出された。
  - 大学等 academic institution の WHO-FIC ネットワークにおける位置づけ及び役割に関するペーパーについて議論を行ったが結論が出ず、後日電話会議を行うこととなった。
  - 各委員会・レファレンス・グループより年次活動報告、ワークプランの検討結果が報告された。
  - 次回 WHO-FIC 年次会議は、ブラジル (ブラジリア) にて、2012 年 10 月 13 日～19 日を予定
- 全体会議 I、II ～保健情報は重要～
  - ・ 南アフリカにおける ICD 及び ICF 導入状況に関する報告
  - ・ タイ、モザンビークにおける ICD 導入状況に関する報告

### ●全体会議Ⅲ～ICD 改訂について～

#### 1. ICD-11 aブラウザについて(WHO ヤコブ氏)

関係者へ公開

<http://www.who.int/classifications/icd11/browse/f/en>

- 機能：閲覧及びコメント
- コメントは WHO によって評価し、各 TAG へ伝達される。

## 2. ICD-11 改訂運営会議(RSG)組織 (RSG 議長 シュート氏)

- 執行小委員会 (Steering Executive Committee(SEG))の設置
- 新たな意思決定方式の導入—Yellow Sheet

## 3. 執行小委員会(SEG)における検討中の事項 (RSG 議長 シュート氏)

- Multi-dimensional Coding : post-coordination 方式の導入。3 桁分類レベルでは pre-coordination を存続させる。
- 分類のフォーマット (桁数、使用する数字、文字等)

## 4. 今後の予定 (WHO ウースタン氏)

- 大幅な変更なし
  - 2012 年 3 月 14~17 日 ICD-11a Final Meeting (ラスベガス)
  - 2012 年 5 月 ICD-11β 版発表
  - 2013~2014 年 フィールドトライアル
  - 2015 年 WHA 承認
  - 以降毎年改正
- Managing Expectations
  - ・ 2011 年 12 月までに各 TAG からの入力がほぼ終了
  - SEG は主要なリニアライゼーション、組織、原則を最終決定する。
  - ・ 2012 年 5 月までに疾病及び死因リニアライゼーションを決定
  - マニュアル、索引、フィールドテストのプロトコル、多言語版の雛型作成

## 5. βphase

- CAT (Collaborative Authoring Tool) を用いて全ての専門家、関係者がコメント、提案を行い、フィールドテストに参加する。
- 科学的ピア・レビューを受ける。

## 6. 今後の課題

- リニアライゼーションの生成
- post-coordination の導入
- 各国の円滑な導入
- ICD-11 への移行戦略：ICD-11 ではなく、ICD2015。以降 ICD2016、2017 と毎年編集する予定。

### ●ポスターセッション

日本から以下 2 名が口頭発表を行った。

- 渡辺賢治 ICD 専門委員 “ICD and Kampo Codes in Japan”
- 国立がん研究センターがん対策情報センター西本寛氏 “The Problem in usage of Topology and Morphology Codes of ICD-O from Hospital-based Cancer Registries in Japan”